

第4編	生活文化、民族・宗教、国家	学習日	名前
		月 日	

教科書 P202～ 要点ノート P124～

(3) 宗教

宗教とは、生死・死後を含めた人間の価値観をまとめたもの。この価値観が違うため、戦争を引き起こすこともあった。

各宗教の宗教人口 (単位: 百万人)

キリスト教	2281	イスラーム教	1553	仏教	463
カトリック	1151	スンニ派	1305	大乘仏教	259
プロテスタント	420	シーア派	217	上座部仏教	176
正教	270	その他	31	チベット仏教	28
聖公会	86				
その他	354				

ヒンドゥー教	943	シク教	24	儒教・道教	15
ユダヤ教	15	新宗教	64	その他	755

【世界宗教】

国家・民族を超えて信仰されている宗教

① キリスト教

ユダヤ人の(1)によって創始された。世界で最も宗教人口が多い。イエスの死後パウロなどの弟子による伝道で世界宗教となった。1054年(2)と(3)に分裂。16世紀には宗教改革が起こって(4)が成立。今日では、カトリックは(5)中心、プロテスタントは(6)中心、東方正教は(7)を中心に信仰されている。教典は『8』(ユダヤ教の教典でもある)と『9』。聖地はイェルサレム。

② イスラーム教

7c初、(10)によって創始された宗教。世界宗教の中では最も成立が遅い。イスラーム教の寺院を(11)という。聖地は(12)(13)(14)。メッカには(15)があり、イェルサレムには(16)がある。イスラーム教徒を(17)とよび、彼らは教典(18)に従って生

活し、六信五行を信仰の根幹とする。

六信 … 神、天使、啓典、預言者、来世、運命を信じる

五行 … 信仰告白、礼拝、喜捨、断食、巡礼

豚由来のものを食すこと、アルコールの摂取、偶像崇拝を禁じ、女性の労働や肌の露出を制限。

③ 仏教

BC5cに(19)がインドで始めた宗教。尊称が(20)インド古来のバラモン教の階級制度を否定。キリスト教やイスラーム教と違い多神教。釈迦は(21)で悟りを開き、弟子とともに説法を広めた。死後約100年後、個人の解脱をめざす(22)と衆生救済をめざす(23)に分裂。上座部仏教は東南アジア諸国やスリランカに伝播し南伝仏教とよばれた。一方、大乘仏教は中国・朝鮮・日本に伝播し、北伝仏教と呼ばれた。ただし、東南アジアでも中国の影響が強い(24)は大乘仏教が広まっている。建築物として、仏塔(ストゥーパ、パゴダ)が知られている。一方、チベットでは独自に(25)が成立した。(26)を聖地とし、中国のチベット自治区や内モンゴル自治区、モンゴル、ブータンなどに広まっている。

【民族宗教】

① ヒンドゥー教

古代インドのバラモン教をもとに成立。(27)と呼ばれる身分制度の影響を強く受けている。インド・ネパール・バングラデシュ・スリランカ・バリ島(インドネシア)などで信仰されている。インドでは人口の80%ほどが信仰している。多神教であり、牛を神聖なものとしている。よって、牛を食べることは禁止されている。河川に対する信仰もあり、特にガンジス川での(28)が有名。ガンジス川下流のバラナシに沐浴場があり、聖地となっている。

② ユダヤ教

ユダヤ人が信仰する宗教。(29)を唯一神とし、ユダヤ人が選ばれた民であるという(30)を持っている。食の禁忌が非常に多い。聖地イェルサレムの(31)がよく知られている。

③ 神道

日本の多神教。あらゆる自然に神が宿る都市、「生」の恵みを与えてくれる自然に感謝する宗教。これは現在の日本に大きな影響を与えており、11月23日は天皇陛下が五穀の収穫を神々に感謝する新嘗祭で、それが現在の(32)になっている。